

# 持続可能な社会の実現のために IHI グループができること



IHI グループの各事業領域の目指す方向性

IHI グループは、「技術をもって社会の発展に貢献する」「人材こそが最大かつ唯一の財産である」を経営理念とし、また、「グループ経営方針 2019」の目指す方向性として、「持続可能な社会に求められる新たな価値を創造すること」を掲げました。

社会の発展は、社会にあまたある課題を解決することによって成されるものです。今や世界で共通言語となった SDGs の持続可能な開発目標に向かって、気候変動など社会に大きな影響を与える課題の解決に我々の最も大切な資産である「技術」と「人材」の力で、事業を通じて貢献していきます。

気候変動問題に IHI グループとして取り組む意思

表示として、2019 年 5 月に、気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures: TCFD) の提言に賛同し、署名しました。このタスクフォースは企業における気候関連のリスクと機会について投資家が適切に評価できるように、国際組織 FSB (Financial Stability Board: 金融安定理事会) が設立したものです。CO<sub>2</sub> 排出削減に関して定量的かつ継続的に管理を行い、CO<sub>2</sub> 排出削減に関わるお客さまと一緒に社会課題を解決できるものです。

IHI グループは、気候変動の緩和と適応に向けた技術開発を真摯に進めていきます。



ここでは、本号に掲載している記事の製品／技術について、SDGs に視点を置きご紹介します。

<p><b>CO<sub>2</sub> 有効利用による炭素循環型社会の実現へ</b> pp. 26 – 29</p>	<p><b>レーザー溶接技術の社会インフラへの適用</b> pp. 48 – 52</p>
<p>昨今、CO<sub>2</sub> を大気中に放出しないことが求められるなか、資源を効率的にエネルギーに変換し CO<sub>2</sub> 排出を抑えることにとどまらず、「CO<sub>2</sub> の有効利用による炭素循環型社会を実現すること」で、その求めにお応えします。すでに CO<sub>2</sub> を回収する技術を確認し、燃料や化学原料などの有価物に変換する技術も実証段階まできました。このように、安定したエネルギー供給と気候変動の緩和とを同時に実現していきます。世界の人口の増加とともにエネルギー需要も高まるなか、経済的に優れた CO<sub>2</sub> 分離・回収技術と CO<sub>2</sub> 有効利用技術は、エネルギーの安定供給（目標 7）と気候変動の緩和（目標 13）を同時に実現するという新たな価値を社会にもたらします。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> </div> </div>	<p>安全・安心な暮らしのために、道路や橋梁などの社会インフラの老朽化への対策や、異常気象や地震などの自然災害への備えが必要とされます。老朽化への対策の取り組みとして、橋梁部材をレーザー溶接する技術を鋼部材のき裂補修に適用すべく開発を進めています。一般的な当て板の施工が困難な場合でも、さまざまな補修技術をもつことで、状況に応じた補修を行うことができるようになります。この技術をグローバルに適用していき、持続可能な社会を実現します。今ある社会インフラを効率的かつ確実に補修・補強し、長く使い続けることで、住み続けられるまちをつくること（目標 11）に貢献します。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div>
<p><b>持続可能なモビリティ社会の実現に挑戦する</b> pp. 18 – 21</p>	<p><b>次世代モビリティのための旅客機と電動化システムの将来</b> pp. 34 – 41</p>
<p>走行中に温室効果ガスや有害物資を排出するガソリン車やディーゼル車とは違い、環境負荷の小さい燃料電池自動車は、次世代モビリティとして期待されています。燃料電池自動車の空気供給システム用にオイルフリー電動過給機を開発しました。この電動過給機は、燃料電池の小型・軽量化に貢献し、燃費向上を実現するものです。燃料電池自動車には、コスト面や水素ステーション不足など解決しなければならない課題がまだありますが、それらが解決され普及すれば、環境への負荷を最小限にした移動が可能になります。クリーン技術および環境に配慮した技術で持続可能性を向上させる（目標 9）ことに貢献します。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくらう</p> </div>	<p>環境負荷を低減するという動きは、航空機の分野でも起こっています。私たちは、軽量で耐熱性の高い CFRP（炭素繊維強化プラスチック）製部品の開発とその量産に成功しエンジン性能の向上を実現しました。このことは、気候変動の緩和（目標 13）につながります。将来に向けては、さらなる飛躍となる航空機および航空エンジンの電動化の実現を目指しています。航空機・エンジン電動化システムの将来構想は技術論文に示したとおり、さまざまな取り組みがあり、グローバル・パートナーシップのもとで技術開発を進めています（目標 17）。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナーシップで 目標を達成しよう</p> </div> </div>